

# 防災を主体としたまちづくり【江波地区】

～災害への備えを通じた地域コミュニティの活性化～

【参加団体】 地区社会福祉協議会、自主防災会、町内会、民生委員児童委員協議会、地域包括支援センター、地区住民

地区の状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 中区で唯一「土砂災害警戒区域」・「土砂災害特別警戒区域」があり（江波山、江波皿山及び丸子山の周辺）、ほぼ全域が高潮・津波による浸水想定区域内でもある。</li><li>・ 災害時に自力で避難することが困難な「避難行動要支援者」が中区で最も多く、また災害危険区域に住む「避難行動要支援者」の数も中区で最も多い。</li><li>・ 古くからの住民も多いが、新築のマンションや戸建て住宅も増えている。</li></ul>
取組内容	<p>◆ <b>地域の防災意識を高めるとともに、住民同士のつながりを深めていく</b></p> <p>地区の特性から、災害に備えて「自助」に加え「共助」の意識を醸成していくことが住民にとっての共通課題であり、江波地区社会福祉協議会では、「<b>防災</b>」を主体としたまちづくりを推進している。取組に当たっては「江波地域包括支援センター」が、随時福祉的な観点から連携・支援することで、「住民同士の見守りや支え合い」「困りごとの解決」「地域で活躍する担い手づくり」といった、<b>互いに支え合う仕組みづくりも、一体的に図ることができている。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p><b>主な取組内容</b></p><p>◎江波地区「令和4年度げんきびと研修会」の開催（R4. 11. 19～20）</p><p>地区社協と包括支援センターが共催で、防災意識を高めることにより、地域のなかで見守りや支え合いの輪が広がることを目的に開催。町内会や自主防災会、民生委員、サロン世話人など計21名が参加。江波地区で起こりうる災害について学んだのち、防災士とともに江波二本松をモデルにまち歩きをして、グループに分かれて防災マップの作成に取り組んだ。</p><p>◎江波地区「わがまち防災マップ」作成（R4. 11～R5. 3）</p><p>その後、社協会長から各町内会長へ呼びかけ、取組は各町に広がり、町内会ごとに防災マップ作成のための説明会とまち歩きを実施。包括支援センターも民生委員や地域のボランティアに広く参加を呼びかけた。結果、江波地区全町内の「わがまち防災マップ」が完成した。</p><p>◎江波地区「令和5年度げんきびと研修会」の開催（R5. 11. 11）</p><p>防災を通じてさらに地域の見守りや支え合いの輪を広げるため、今年度も「げんきびと研修会」を開催。今年度は、災害時に自力で避難することが困難な方（避難行動要支援者）について、誰が支援し、どこに避難するか計画（個別避難計画）作成をテーマに、地域の多様な関係者がそれぞれ災害時にどんなことができるかを共に考え話し合う内容を企画。防災の取組を通じて、平時から互いに協力し合う関係づくりを深めることを目指している。</p></div>
活動による効果	<ul style="list-style-type: none"><li>● 多様な地域団体が集まり、共に防災の視点でまち歩きをすることで、新たな危険箇所や避難場所などの発見につながり、防災意識の向上を図ることができた。</li><li>● 防災マップを作成するだけでなく、いかに活用するか、次の地域活動に繋げるかを考えることで、単発的な取組で終わらず、継続的で広がりのある取組となっている。</li><li>● 各取組を通じて、災害時の備えを皆で考えることで、平時からの互いの見守り、支え合いの大切さを考える機会となっている。</li></ul>
行政の支援	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「わがまち防災マップ」作成に当たり、アドバイザーの防災士の派遣、まち歩きに必要な資材（白地図、文房具等）の準備、マップ原案の作成・マップの印刷などを行った。</li><li>・ 避難行動要支援者の個別避難計画作成に当たり、本人・家族と支援者の連絡調整、計画作成に必要な防災に関する情報提供などを行った。</li></ul>



▲「げんきびと研修会」では、まち歩きをし、その内容を「防災マップ」として作成し、グループ発表を行いました



▲まち歩きをはじめとした「わがまち防災マップ」作成の取組は江波地区の全10町に広がり、地区全体で1枚のマップが完成しました



▲要支援者の方や家族、福祉関係者、ご近所さんで集まり、災害時の支援について話し合う機会も生まれています